

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月11日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4674900198号		
法人名	医療法人 幸望会		
事業所名	グループホーム 第二スマイル園		
所在地	鹿児島県 出水郡 長島町 鷹巣 2093-1 (電話) 0996-86-1017		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年4月9日	評価確定日	平成21年4月25日

【情報提供票より】 (21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算	12人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	5,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 650 円		

(4) 利用者の概要 (3 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	0名	要介護 2	7名
要介護 3	1名	要介護 4	7名
要介護 5	3名	要支援 2	0名
年齢	平均 82.9歳	最低 80 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高野医院・児島歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、地域住民のために低居室料となっており、入居者が安心して地域で暮らし続けられるよう見守り、楽しく過ごせる支援をしている。地元の住民を常勤職員として採用し異動はほとんどない。馴染みの職員が入居者を敬いの気持ちで支援している。医療連携体制をとり、終末期や重度化にも対応方針を決め、協力医療機関との連携が図られ、最後までその人らしく暮して行けるよう努めているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	日常的な外出支援について、ホームの庭に散歩用通路を作り、入居者が散歩できるよう工夫し改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が作成し、職員に提案して検討する方法で実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月毎に地域住民代表や家族代表等多くの参加を得て開催し、ホームの現状や入居者の様子など報告し、日頃の疑問や意見を受け、話し合う中で、理解が深まり協力関係が築かれるなど、サービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明している。年1回の家族会や運営推進会議に家族代表にも参加を呼びかけ、要望や不満、意見を聞く機会を設け、運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、総会や毎月の集まりに参加し、地域住民と顔なじみの関係が築かれている。餅つきやクリスマス会、お月見など地域の人にも参加を呼びかけたり、保育園児や小学生のボランティアの受け入れなど交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に作った理念を見直し、地域密着型サービスとしての役割を考えた事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎朝、理念を唱和し共有して、理念を基本とした介護に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、総会や毎月の集まりに参加し、地域住民と顔なじみの関係を築いている。餅つきやクリスマス会、お月見など地域の人にも参加を呼びかけたり、保育園児や小学生のボランティアの受け入れなど交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の改善点は改善に取り組んでいる。自己評価は管理者が作成し、職員に提案する方法で実施している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、ホームの状況や利用者の様子など報告し、意見を引き出すよう取り組んでいる。ホームについての疑問点など解消する事ができ、サービス向上に活かしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、町主催の地域ケア部会に参加し、情報交換や相談など気軽にできる関係を築いている。地域福祉の質向上に共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に話したり、年4回発行しているホーム便りと、個別の生活状況報告書を同封し、入居者の様子や暮らし振りなど報告している。職員の写真をホーム内に掲示し紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情・相談窓口を明記し、入居時に説明している。年1回家族会を開催したり、運営推進会議に家族代表に参加を呼びかけ、意見や苦情が表せる機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はほとんどないが、やむを得ない異動の場合、オリエンテーションや勤務など工夫し、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員育成の重要性を認識しているが、研修計画を作成していないため、段階に応じた研修の機会を確保できていない。		地域密着型サービスの職員として質を向上させていけるよう、研修計画を立て法人内外やホームで研修を受ける機会を確保する事が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホームは同法人の2ヶ所で、管理者、職員ともに交流し相談や連携を図り、サービス向上に活かしている。地域ケア部会で他の施設との交流の機会を持ち、地域福祉の質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からやむを得ない状況での入居が多いが、見学や面談など家族と相談して、少しでも馴染めるよう工夫している。地域でよく知っている職員が多いため安心して利用できている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者・職員は、入居者に地域の中でその人らしく暮らしてもらえよう、尊敬の気持ちを持ち、漬物作りや、餅つき、あく巻き作りなど教えてもらいながら支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から思いや意向を聞き、毎日の会話や表情等からそれぞれの思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合も利用者本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの希望や思いを事前に聞き、日頃のケア記録や主治医の意見等参考に、職員と話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを3ヶ月毎に実施し、必要時に応じて介護計画を見直している。状態変化時や家族や主治医の要望や意見がある場合も見直しをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、24時間健康管理体制がある。家族と相談して、通院介助や受診介助など支援している。自宅訪問や墓参りなど特別な外出の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する主治医の受診や訪問診療など、適切な医療を受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に医療連携体制やターミナルケアについて説明し確認書を作成している。状態変化時は家族や主治医・職員など話し合い、方針を共有し支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員と採用時に誓約書を交わし、個人情報保護やプライバシーの確保について話している。言葉使いや対応など利用者を尊重してケアを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の基本的な流れはあるが、起床や食事・就寝など入居者のペースを尊重し、散歩やドライブなど体調に配慮しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑でできた野菜を使って、調理の下ごしらえや準備・後片付けなどできる事を一緒に行ない、職員はさりげなく支援しながら楽しく共に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回であるが、ユニットで交互に入浴日を設定しており、状況に合わせて入浴できる。入浴剤を入れて温泉気分を出すなど入浴嫌いの人にも工夫して入浴を楽しんで貰っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カレンダーめくりやカーテンの開閉など役割を持っている。テレビや歌などの楽しみごとや花見・盆・正月の帰宅など気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出しやすいうように園内の通路を整備し、天気や体調を見ながら散歩や買い物など支援している。玄関前にテーブルや椅子を出し、過ごす事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中はかけていない。外出傾向の方は、職員で連携し、見守りや声かけ、さりげなく散歩に連れ出すなど工夫して鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回緊急時避難訓練を実施している。運営推進会議において、地域住民にも協力をお願いしている。災害時に備えてカップラーメンや予備発電などの備品も準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量など毎日記録して、定期的に体重や採血による栄養バランスの管理をしている。法人の栄養士の作成した献立にそって調理して、ミキサーや刻み食など状態に応じて配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール・食堂・台所が一目で見渡せ、広々として明るい。テーブルやテレビ・ソファが使いやすく配置され、窓は二重サッシで騒音を遮断し静かである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室にトイレと洗面所が設置しており、プライバシーが保たれている。専用のテレビや家族の写真・お気に入りのぬいぐるみなどが飾られ、本人が安心して過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。